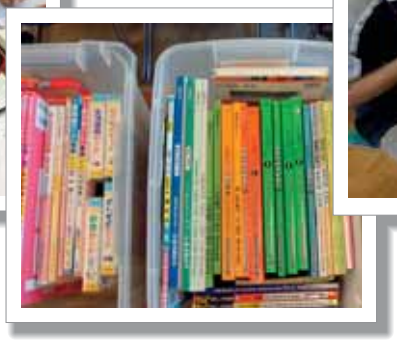
一宮市国際交流協会ニュース第67号　2014.7

かけはし

特集：日本語ひろば

外国人のみなさんが日本語の勉強をするお手伝いを、協会のボランティアグループが行っています。今日の学校の宿題を片づけに来る小学生や、日本語能力検定を目標にがんばる人など、いろいろな年代の人が、様々な目的を持って参加しています。日本語を勉強しながら、日本人やほかの外国人と友達になる場でもあります。　→関連記事　Ｐ２，３



日本語ひろば特集

集まればそこは「日本語ひろば」。日本語のイロハから教えます。
「日本語ひろば」は4つのグループに分かれて、外国から来た日本語の分からない方たち（ゲストと呼んでいます）にボランティアが日常会話や勉強を教えています。その特長ある活動をここにご紹介します。

「日本語ひろば（いちのみや）」はいつでも大盛況!!

ゲストの国籍は中国、ベトナム、フィリピン、ネパールなどその時々様変わりしています。最近インドカレーの店が多くなったため、ネパールからのゲストが増えました。今日もボランティア（先生）を希望しての見学者や、新しいゲストも数人いて大盛況でした。ゲストの主な目的は、日常会話が出来るようになりたいというものですが、日本語能力検定に合格したいという人も多いようです。中には日本語で、いろんな国の人とここで情報交換をしたいと言っているゲストもいましたよ。

ひろばがスタートした時からのボランティアの方で、５人ものゲストを日本語能力検定１級合格に導いた人がいました。ゲストが１級に合格すると、教えた側はゲスト以上に嬉しいとのことです。また帰国する時には、ここで学んだ日本語で皆さんに挨拶する事が恒例で、ボランティアにとっては感無量の時だそうです。これからも、ずっとゲストの成長を見守ってくださいね。

今日の出席数はゲスト45人、ボランティア25人でした。（藤井）

「日本語ひろば（びさい）」も熱気がいっぱい!!

今年は開講13年目、代表者は加藤絡さんで２年前から担当されています。加藤さんが心掛けていることは、「今日来たゲストが次回も必ず来たくなるような教え方をしてあげること」です。ゲストの国籍は毎年変わり、今は繊維やプラスチック製造業界で働いているベトナムの人が多いそうです。ここの特色は休憩時間にみんなで歌を歌うこと。この日も全員で「四季の歌」を合唱していました。また年１回ゲストとボランティアによる小旅行も実施しており、今年は３月2日に総勢50名で奈良へ行ったそうです。勉強中はゲストもボランティアも活発におしゃべりしており、教室中が大にぎわい。会話の中でわからない言葉は電子辞書やスマホを上手に使って調べていました。なお「びさい」のボランティアのうち数名は「いちのみや」のひろばにも行っています。それで教室の垣根も感じられないのですね。みんなの生き生きした笑顔を見ていて、私も楽しくなりましたよ。今日はゲスト20名、ボランティア17名が参加していました。（橋本）

「日本語ひろばジュニア」は目指せ高校卒業!!

ジュニアが始まって５年。「高校までは卒業する」をゲストもボランティアも目指しています。今は中国、フィリピン、ペルーの３カ国の子どもたちが中心です。来日してすぐの子もいれば、ジュニアがスタートした頃からの子もいます。最初からの子はすでに、高校３年生になっていました。勉強はマンツーマンで、「教えること」と子どもたちとの「会話」を重視しています。11時頃から10分間休憩が入ると、どの国の子もスマホや携帯ゲーム機を出します。その姿は日本の子と同じです。

大学院生で参加している西脇先生は、「子どもが分かってくれる時が一番楽しい。達成感を感じます。将来教員を目指しているので、とても役に立ちます。」と話してくれました。ボランティアは、元教員、会社をリタイヤした方、主婦の方たちで、みなさん子どもたちが待ってくれているという思いが、ここで続けられる力になっているようです。

今日の出席数はゲスト10人、ボランティア９人でした。（藤井）

「寺子屋いちみん」は宿題がわかるぞ!!

木曽川庁舎改装のため、同じ木曽川町にある妙君寺（みょうくんじ）へ移りました。登録ゲスト数は19名。平均出席者は６～７名です。寺子屋をまとめている高取室長に聞きました。「今は小学生より中学生の出席者が多い。なかには今年起工業高校に入った高１の子も来ています。ボランティアは常時４～５名出席し、他に岐阜聖徳学園大学の学生が交替で２名ずつ参加してくれています。」

学習のメインは宿題で、やはり日本語が難しいようです。問題を読んでも何のことかわからないのですが、ボランティアが分かりやすく解説してあげると、答えは案外簡単に出るそうです。読解力をつけることの大切さを痛感していると言われました。去年から１年間通っている子は成績も上がっているとのこと。ただ中学生は部活があり、「寺子屋」との両立が難しいそうです。そこで６月からは、午後５時から６時半までの開催時間を７時まで延長することになったそうです。それにしてもボランティアとはいえ、みなさんの情熱には頭が下がりました。（橋本）

日本語ひろば開催日時

日本語ひろば（いちのみや）　毎週日曜日（第３日曜・祝日等のぞく）10時～12時15分〈青年の家〉
日本語ひろばびさい　毎週日曜日（第１日曜・祝日等のぞく）14時～15時30分〈三条つどいの里〉
日本語ひろばジュニア　毎週土曜日（祝日等のぞく）10時～11時30分〈青年の家〉
寺子屋いちみん　毎週火・金曜日（祝日等のぞく）17時～19時〈妙君寺、木曽川町黒田〉

※ひろばのボランティアとして活動したい方や、日本語を勉強したい方は、詳しくは協会ウェブサイトをご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

エリ&ジャックスのコラボセミナー
‥私の常識あなたの非常識？‥

尾西生涯学習センター　5.24、5.31

日本には“ところ変われば品変わる”ということわざがありますが、皆が当たり前だと思っていることが、国や地域の違いによってそこの人々にとっては全く信じられないことであったりします。そういうお話が２回に分けて開催されました。

一宮市の国際交流員ライダー・ジャックリーンさんと、清須市の国際交流員ヘア・サストレ・エリザベスさんのお二人によるセミナーです。２回とも４人１組になって机を囲み、ワークショップ形式でセミナーは進められました。

最初に緊張した雰囲気を和らげるために、ちょっとしたゲームで笑いをとり、ブレーン・ストーミングという思いつくことを書きまくる作業で脳を柔らかくしてからいよいよ本題に入ります。

今回は『常識』をテーマに、１回目は『男とは？女とは？（ジェンダーってなに?）』、２回目は『国によって異なる文化』について考えました。このテーマは分かっているようでいて意外と難しいテーマではないかな？と思われましたが、お二人のお話の進め方、それにも増してお二人のキャラクターがすばらしく、まさに名漫才コンビ（失礼）といったところで、参加者の皆さんも思わず話の中に引き込まれていきました。

１回目のお話は“男はこうでなければいけない”“女はこうあるべき”（GENDER）という国や地域によって異なる考え方があることの紹介がありました。そのなかで、女性に生まれてきたため、悲惨な人生を送らなければならない北インドの少女の話と、同じような劣悪な境遇にありながら、たまたま子どもを支援する団体の教室に通うチャンスがあったアフリカの少女が、１人の人間として活躍する場所を得たという話がありました。これは状況によって弱い者はますます弱くなるが、しかし誰かの助けがあればそこから抜け出すことが出来るということ。そして今、我々は手を差し伸べることの出来る立場にあることをよく考えなければいけないことを思いました。

２回目はバーンガ（BARNGA）というゲーム《４つのグループでそれぞれ少しだけルールを変えたカードゲームを行い、勝った人が１人ずつグループを移動、ルールが違うことに気付かず混乱するというもの…これは少数者（民族にも例えることができる）の気持ちを感じ取るというゲームでした。》を行い、マイナーな立場にある人のことを考えることの大切さを学びました。このように楽しいなかにも非常に考えさせられた２回にわたるセミナーでした。我々はともすれば似た境遇の人たちだけと一緒にいるため、なかなか気付けないことを気付かせていただきました。

最後にお二人のお国ニュージーランドとスペインの食べ物をいただいて終わりました。

（雲谷斎）

友好都市提携一周年記念　イタリア・トレビーゾ文化理解セミナー

イタリアを知ろう！トレビーゾを知ろう！

尾西生涯学習センター会議室＆料理実習室　2.22、3.1

友好都市イタリア・トレビーゾ市との関係が深まったのは、当時一宮市の国際交流員だった同市出身のリーザさんが、両市間の交流のかけはしとなっていろいろな交流を進められたからです。小学校間の絵手紙交流や、IUAV大学ファッションデザイン学科のデザインコンテスト優秀学生を一宮市へ招致する事業などを実施した結果、昨年１月末に友好都市としての新たなスタートが切られました。その後も、大成中学女子柔道部のトレビーゾ訪問、市内中学生のトレビーゾをはじめとするイタリア派遣、そしてトレビーゾフェアの開催へと発展してきました。

今回の講座は、イタリア出身の国際交流員ヴァレンティーナさんに、日本人が持っているイタリアへの間違ったステレオタイプを払拭すべく、知られていないイタリアの側面を紹介してもらいました。また、彼女が日本に来るきっかけとなったアニメとの出会いや、日本留学時の話を交えての自己紹介も聞きました。

１日目は、広大な領土を抱えた古代ローマ時代から、中世の都市国家間の戦いの歴史、1800年代以降の統一国家の歴史を聞きました。現在のイタリアの統一国家体制は意外と新しいことに驚きました。

また、クイズでイタリアのイメージを膨らませました。①山地は多く国土の73%　②一番高い山はモンテビアンコ（モンブラン、標高4,810m）③パスタの種類は約200種類　④チーズの種類は約400種類　⑤一番長い川はポー川（全長652km）などなど。

２日目は、トレビーゾが強大な都市国家ヴェネチアなどに影響を受けながらも独自の地域として発展させてきた歴史を持ち、ベネトン、デロンギ、ピナレロ、ディアドラなど世界的企業を生んできたことを紹介。また、旧市街地には、街に入る門や古くて大きなドゥオーモ教会などがあり、運河が街中を流れる落ち着いた街と紹介されました。

後半は料理室に移り、トレビーゾ発祥とされる、とっても甘いティラミスをみんなで作って食べました。また、特産品のラディッキオをサラダにして、そのシャキシャキした食感を楽しみました。

この料理の準備・後片付けには国際交流協会のクッキンググループボランティアの手伝いもあり、スムーズなお菓子作りができました。感謝、感謝です。　（佐野）

“ヤングフェスティバル”

よく晴れた日曜日、青年の家で今年も“ヤングフェスティバル”が開かれました。日本語ひろばで勉強するベトナム、中国などアジア各国の若者たちや、ここで練習する劇団や手話グループのみなさんがそれぞれ手づくりで企画したフェスティバルです。ここでは日本語ひろばのみなさんによるスイーツ手づくり教室や歌のステージ等をご紹介します。

日本語ひろばはアジアンスイーツづくりの体験教室を開きました。チェー（ベトナムのお菓子）づくり体験はカップにココナッツミルク、ドライバナナ、ピスタチオチップ、黒豆、タピオカなどいろいろなものを入れ、最後に赤いチェリーをのせれば出来上がりです。ベトナムでは昔から暑い時や疲れた時にちょっと食べる定番として、今でもよく食べられている人気のおやつだそうです。

その他、フィリピンのスイーツ“イェマボール”やベトナムの“揚げ春巻き”“ベトナム風サンドイッチ”などが販売されました。実はこの舞台裏でボランティアのみなさんと外国の若者たちとでこれらのお菓子などを一緒に作っていました。朝から開場までの短い時間はみなさんてんてこ舞いの大忙しでした。

二階の特設ステージでは、カラオケが催されました。中国と日本の方が「隠形的翅膀（インシンダチーバン）」を上手な中国語でデュエットされ、続いて色とりどりのきれいなアオザイを着たベトナムと日本の“アオザイガールズ”のみなさんによる「大きな古時計」が合唱されました。会場の観客にも歌詞カードが配られると、全員一緒に歌って国際親善を楽しみました。

野外ではお餅つきが行われ、おもしろそうだと、日本語ひろばの外国人たちもチャレンジ。つきたてをきな粉餅などでおいしそうにほおばっていました。会場で、まもなく帰国のベトナムの女性が「日本に滞在中は本当にありがとうございました。とてもよい日本の思い出となりました」と、ボランティアの方々へお礼を述べる姿が印象的でした。このような地道な活動が、将来きっと国や人をつなぐ心の「かけはし」になって実を結んでゆくことでしょう。（ドリアン）

おとなりさん

フランス南西部ジャルナック（Jarnac）出身のモルバン末松グニエさん（Morvan　Suematsu Guenier）をご紹介します。

ジャルナックは、コニャック（ブランデーの一種）とミッテラン元大統領の出身で有名な町です。

2011年に来日。奥さま文さんと出会い、この一宮に住むことに。現在は現代アートの仕事と日本語の勉強をされています。

日本に来てすぐに東日本大震災が発生、報道で流される東北の状況に、何か自分もできることを！と思い、その夏１週間、石巻市でボランティアをされました。日本語がまだよくわからない中でも、日本人の前を向く強い気持ちに心打たれたようです。

「日本語の勉強は、難しいけど面白い！」というモルバンさん。「わかってると思うと全然違ったりして…（笑）」と話す文さん。お二人の掛け合いは、漫画「ダーリンは外国人」を思い出させます。日常の生活に、驚きがいっぱいあるそうです。特に驚いたのは友人との食事会で、まだ皆が食べ終わらないのに席を立つ人がいたこと。フランスではありえないこと。真剣に怒ってしまうモルバンさんをなだめる文さんも大変です（笑）。生まれ育った環境の違いは、毎日の生活のほんのちょっとしたことに現れるようです。

現代アートの仕事は、たとえば、本来あるべき姿でない材料で作品を作ったり、見た人が「え！」と驚いたり、何かハッとするものを創ること。自分の作品が好きとか嫌いとかが重要ではなく、作品を見た人が感じたままに、感想を述べ合うことが喜びと話されました。

撮影：末松グニエ 文

今後の夢をお聞きしたら「もう叶っている」と。毎日が充実し、お幸せなのを感じました。

さて最後に、一宮の皆さんへのメッセージは？

「一宮には美しい古い建物がいろいろあります。市役所西分庁舎・尾西繊維協会ビルや伝統的な家屋など、どの建物にも言える事ですが、その建物に入り、歩くということは、それが建った時代、もしくは過ごした時代の中を歩いているということになります。それはその建物がなければ感じたり、体験することの出来ないものであり、そのように歴史を体感することは素晴らしいことです。しかも、内装や外観は今では建てる事ができないものばかりです。ぜひ大事に保存していきましょう！」

お二人と話すうちに、古いものを大切にすることは、新しいものに出会うことにつながるのを感じました。

これからもこの街で仲良く過ごして欲しいです。

（森）

iiaイベントinformation

お問い合わせ・お申し込みは
一宮市国際交流協会（iia）まで
ＴＥＬ：0586-85-7076
ＦＡＸ：0586-73-9213
メール：iia-138@iia-138.jp

iia親善ボランティア募集中！

「かけはし」の編集や日本語ひろば、イベントスタッフなど、iiaの活動を支えていただく親善ボランティアを随時募集しています！年齢・性別・居所・語学能力等は不問です。
詳しくはiia事務局までお気軽にお問い合わせください。

びさいまつり・iiaふれあい体験ブース

びさいまつりにiiaブースを出展します。国際交流員やボランティアによる楽しい体験型イベントでみなさんをお待ちしています！
日時：10月25日（土）・26日（日）
会場：びさいまつり会場内

トレビーゾフェア

友好都市イタリア・トレビーゾ市の魅力を紹介するイベントを開催します。特産品の展示販売や音楽ステージなど、楽しい企画が目白押しの2日間です！
日時：11月１日（土）・２日（日）
会場：i-ビル(尾張一宮駅前ビル)

地球あっちこっち

パラグアイで感じた当たり前の幸せ

横浜国立大学3年　玉腰　純

玉腰純さんは、一宮市出身。現在横浜国立大学で国際協力について学んでいて、実際の現場を見るためパラグアイを訪れました。

パラグアイの都市部の街並み

2013年９月、僕は大学のプログラムの一環で、南米中央部に位置するパラグアイ共和国におよそ一か月間滞在してきました。主な目的は、現地大学との学術交流、農村調査、日系移住地の訪問でした。

はじめて南米を訪れるということで、僕はとても緊張していました。「どんな人がいるのだろう？」「食べ物は口に合うだろうか？」「無事に帰れるだろうか？」など不安もありました。しかし、実際にパラグアイでたくさんの人と触れあう中で、そのような思いはいつのまにか消えていました。

パラグアイは南米一安全と言われていますし、どこへ行っても、人々は笑顔で、盛大に歓迎してくれたからです。アサード（日本でいうところのバーベキュー）や、パラグアイの伝統的ダンスのボトルダンスは「最高！」の一言でした。伝統的、といえば、手工芸品のレース、「ニャンドゥティ」もすばらしいものです。

ニャンドゥティ

パラグアイにおける“おもてなし”の精神は、都市部であっても、農村部であっても同じで、パラグアイ人の優しさ、懐の深さを実感しました。また、パラグアイの人たちはおおらかでもあり、時間がとてもゆっくり流れているように感じました。過密なスケジュールで動いていたため、身体的には苦しいところもあったのですが、パラグアイの雰囲気のおかげというか、その独特な時間の流れ方のおかげで、気持ち的にはとても楽でした。

パラグアイは途上国と言われていて、僕は「途上国」と聞くと、貧しい人をイメージしてしまうのですが、パラグアイで生きる人々に、「貧しい」というような印象はまったく持ちませんでした。確かに、生活は苦しいかもしれませんし、子どもが学校に通えない、ということもあります。ですが、近所の人たちと家の前に集まって、椅子に座ってお茶をしながら話をしたり、家族がそろって食事をしたり、子どもたちは広場に集まって、サッカーやバレーボールをしたりして、彼ら彼女らには笑顔があふれていました。その笑顔はとてもまぶしく、日頃、日本で過ごしていると忘れてしまいがちな、当たり前の幸せを実感しました。

農村でのごはん

世界遺産　トリニダー遺跡

編集後記

この号が出る頃には、すでに夏真っ盛りになっていることだろう。幸いにも私は夏が大好きだ。しか～し、私は日本の夏の必須アイテムであるエアコンが大の苦手でもある。自分で自分の体温をコントロールせず機械に頼るなんてケシカラン！などという勇ましい主張ではない。年齢を重ねるにつれエアコンの押し売り的な快適さに体温の調節機能が追いつかなくなってきているのだ。汗を飛び散らせて駆け廻ったあの頃の夏休み。ジリジリと暑い縁側で、スイカにかぶりついて過ごしたあの夏が今は懐かしい。（you都市）

発行　2014年７月　編集　一宮市国際交流協会　〒491-8501　一宮市本町2-5-6　TEL0586-85-7076

この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材、編集されています。
協会に関する情報は、ホームページをご覧ください。【HPアドレス　http://www.iia-138.jp/】
ご意見・ご感想などお待ちしております。【メール　iia-138@iia-138.jp】
Facebookページもご覧ください。【Fb　https://www.facebook.com/iia138】